資料3

アレルギー疾患医療従事者の研修の実施状況

1　平成 30 年度実施状況

（１）「アレルギー疾患治療専門研修」（東京都アレルギー疾患医療拠点病院実施）

１）目的

アレルギー疾患の重症・難治性の症例に係る講義や最新の知見の提供を通して、医師等のアレルギー疾患診療に関する資質の向上を図る。

２）実績

《第１回》

テーマ：「アレルギー疾患の良好な管理をめざして~最新ガイドラインの実践的活用~」

日　時：平成３１年３月１９日（火曜日）午後７時から９時まで

場　所：東京都立小児総合医療センター　１Ｆ講堂フォレスト

内　容：①　アトピー性皮膚炎のコントロールをめざす治療戦略

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 のエッセンス

講師：成田　雅美（都立小児総合医療センターアレルギー科医長）

②　アトピー性皮膚炎患者へのスキンケア指導のコツ

講師：益子　育代（都立小児総合医療センター小児アレルギーエデュケーター）

③　食物アレルギーの適切な診断と管理

食物負荷試験実施のタイミング　症例から学ぶ

講師：吉田　幸一（都立小児総合医療センターアレルギー科）

参加者：７８人

《第２回》

テーマ：「臨床アレルギーの基本セミナー　～ 明日からのアレルギー診療に役立つ～」

日　時：平成３１年３月２０日（水曜日）午後７時から８時３０分まで

場　所：東京慈恵会医科大学１号館 3 階講堂

内　容：①　１０分でわかるアレルギー診療ガイドラインの要点

・喘息（小児）講師：田知本　寛（東京慈恵会医科大学附属病院小児科）

・喘息（成人）講師：沼田　尊功（東京慈恵会医科大学附属病院呼吸器内科）

・じんましん　講師：松尾　陽香（東京慈恵会医科大学附属病院皮膚科）

②　日常診療に潜む「アレルギー」の pitfall　症例を通して学ぼう

講師：勝沼　俊雄（東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科）

③　アレルギー診療の基本手技「吸入指導」

・小児の吸入指導　講師：相良　長俊（東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科）

・成人の吸入指導　講師：加藤　潤一郎（東京慈恵会医科大学附属病院薬剤部）

参加者：１１５人

（２）ぜん息罹患重症化防止事業　医療従事者向け研修（東京都医師会実施）

１）目的

ぜん息等り患児の重症化防止事業により診療ガイドラインの普及等を図る。

２）実績

テーマ：「小児ぜん息診療の up-to-date　舌下免疫療法やアレルギー発症予防もふくめて」
講師：成田　雅美（都立小児総合医療センターアレルギー科医長）

《区部》
日　時：平成３０年１１月１０日（土曜日）午後３時から５時まで
場　所：東京都医師会館
参加者：４０人

《多摩地域》
日　時：平成３０年９月２９日（土曜日）午後３時から５時まで
場　所：京王プラザホテル八王子
参加者：３７人

２ 令和元年度研修実施予定

（１）「アレルギー疾患治療専門研修」（東京都アレルギー疾患医療拠点病院実施）
東京都アレルギー疾患医療拠点病院（東京医科歯科大学附属病院、東京都立小児総合医療センター）にて、実施予定。

（２）ぜん息罹患重症化防止事業　医療従事者向け研修（東京都医師会実施）
区部、多摩地域にて、実施予定。

【参考：研修アンケートより】

（１）アレルギー疾患治療専門研修（第１回、第２回の合計）

・研修内容については、「参考になった」及び「やや参考になった」の合計が 91%であった(図 1)。

・希望する研修テーマ（複数回答あり）については、疾患別では、「食物アレルギー」が 32%、「アトピー性皮膚炎」が 20%、「気管支喘息」が 16%の順に多かった。また、内容別では、「新しいガイドライン」が 62%、「スキンケア指導法」及び「診断・検査法」が 15%の順に多かった(図 2)。

・アレルギーの診療上で困っていること、拠点病院・専門病院に期待すること等については、「標準的治療で改善しない症例の照会先」が 58%、「患者・家族への情報提供・普及啓発」が 16%、「人材育成支援」が 15%の順に多かった(図 3)。

図１　参考になったか

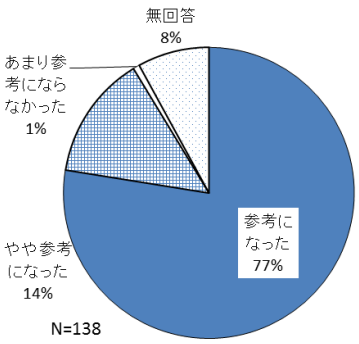


図２　希望する研修テーマ N=138

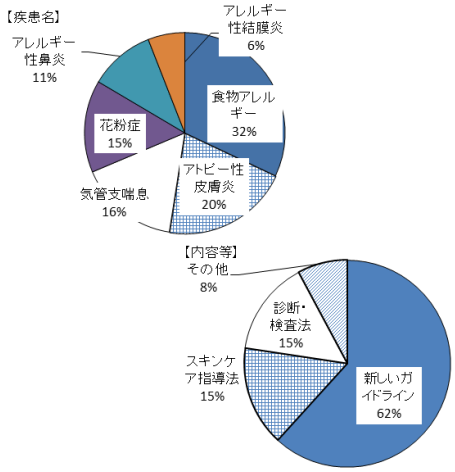
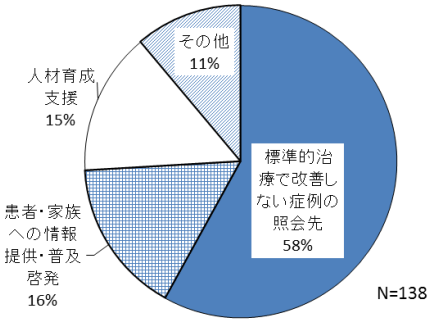


図３　アレルギーの診療上で困っていること、拠点病院・専門病院に期待すること等（複数回答）



（２）ぜん息罹患重症化防止事業　医療従事者向け研修（区部、多摩地域開催の合計）

・研修内容については、「参考になった」及び「やや参考になった」の合計が 98%であった(図 4)。

・希望する研修テーマ（複数回答あり）については、「子供の食物アレルギー」及び「アトピー性皮膚炎」が 24%、「大人のぜん息と COPD」が 21%の順に多かった(図 5)。

・ガイドライン等の使用状況については、「部分的に使っている」が 51%、「あまり使っていない」が 32%、「よく使っている」が 17%の順に多かった(図 6)。

図４　参考になったか

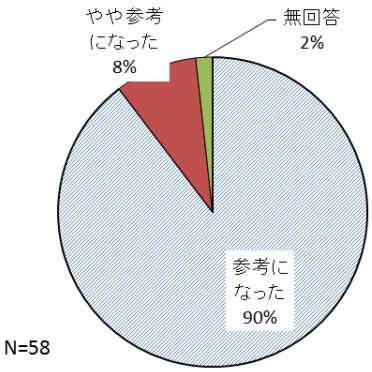


図５　希望するテーマ（複数回答）

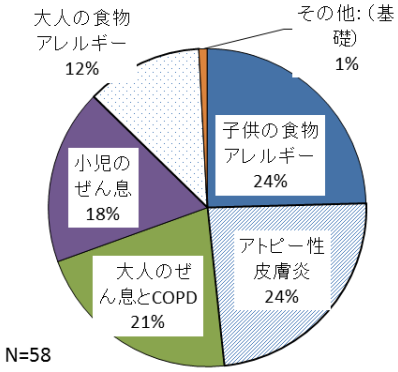
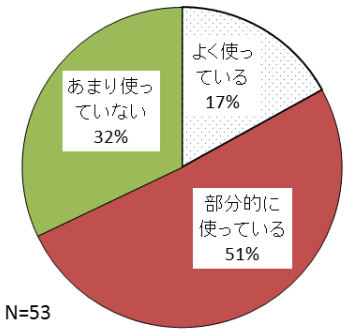



図６　ガイドライン等の使用状況